

1 梨の生育状況

果実肥大は、7月21日の無作為調査結果では、「幸水」の横径は63.5mm（前年：61.2mm、平年：65.7mm）で、前年よりやや大きく、平年よりやや小さくなっています。

2 黒星病について

●収穫期間中の黒星病の発生を抑えるためには、収穫直前まで、発生した果実、葉の病斑を除去して、ほ場外に持ち出し、感染源の密度を低下させることが極めて重要です。

表1、2のとおり、7月中旬における「幸水」、「豊水」の果そうの発病率は、6月15日の調査時（「幸水」34.4%、「豊水」24.4%）よりも低くなっており、多発年となったH27年と比較しても低い状況です。また、表3、4のとおり「あきづき」、「新高」も果そうの発病率は低い状況です。

表1 「幸水」における年次別の7月中旬の黒星病発病果そう率（%）

R4調査日	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27 (多発年)
5月19日	13.6	2.4	0.3	0.8	7.4	3.1	5.9	—
6月15日	34.4	2.6	0.4	2.8	19.7	5.9	6.7	45.8
7月15日	8.8	2.1	0.8	0.4	14.9	7.7	10.8	28.1

表2 「豊水」における年次別の7月中旬の黒星病発病果そう率（%）

R4調査日	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27 (多発年)
5月19日	7.3	0.6	0.4	0.7	7.8	12.1	5.9	—
6月15日	24.4	1.6	1.1	4.6	19.2	14.6	8.4	42.6
7月15日	7.8	1.9	1.3	1.1	17.3	13.6	6.9	28.8

表3 「あきづき」における年次別の7月中旬の黒星病発病果そう率（%）

R4調査日	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27 (多発年)
5月19日	0.5	1.0	0.0	0.5	2.5	2.5	0.0	—
6月15日	5.0	1.2	0.0	0.0	7.0	3.0	2.0	7.2
7月15日	1.3	1.2	0.0	0.6	11.5	3.5	4.5	21.4

表4 「新高」における年次別の7月中旬の黒星病発病果そう率（%）

R4調査日	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27 (多発年)
5月19日	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	1.1	0.4	—
6月15日	0.0	0.0	0.0	0.7	4.0	0.1	1.6	31.3
7月15日	0.8	0.0	0.0	2.0	4.4	2.0	2.6	24.0

3 除草剤の使用基準について

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守してください。

- (1) 収穫前日まで使用可能：バスタ液剤（年3回以内）、プリグロックスL（年5回以内）
- (2) 収穫7日前日まで使用可能：ラウンドアップマックスロード、サンフーロン液剤、

草枯らしMIC（グリホサートを含む農薬は合わせて年3回以内）

非農耕地用の除草剤を梨園地内や畦畔等には絶対に使用しないでください。

4 これからの防除について

☆秋型病斑葉の発生抑制のため、「幸水」および「あきづき」収穫終了後の防除を実施して下さい。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
17	7月31日 ～8月2日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 リットル	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメモシ類	
特散	8月7日～9日	マイトコーネフロアブル 1,500倍 または ダニオーテフロアブル 2,000倍 (※)	前日 前日	400 リットル	ハダニ類	
●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう						
18	9月初旬頃 (「幸水」収穫 終了後)	ナリアWDG 2,000倍	前日	300 リットル	黒星病	
●ナリアWDGは、全品種が防除対象となります。 ●防除日は、「幸水」の収穫状況を見極めて決定し、8月下旬頃にお知らせします。						
特散	10月初旬頃 (「あきづき」収 穫終了後)	オーソサイド水和剤 80 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	
●オーソサイド水和剤 80 は、全品種が防除対象となります。 ●防除日は、9月下旬頃にお知らせします。						

※マイトコーネフロアブルをすでに散布した園地ではダニオーテフロアブルを散布してください。

【注意事項】

- これからの防除は、収穫期間近あるいは収穫期間中となるので農薬の使用時期（収穫前日数）に十分注意してください。周囲の収穫園にも気を配りましょう（「香麗」や「なつしずく」などの早生品種にも注意してください）。
- 「収穫前日」の薬剤の場合、散布後 24 時間以上あけて収穫してください（収穫中の梨にかかった場合は、収穫は散布後 24 時間以降に実施してください）。
- ハマキムシ類およびシンクイムシ類対策として、7月末頃にコンフューザーNを 50 本/10a 追加設置してください。
- 「幸水」以降の品種にハマキムシ類およびシンクイムシ類の果実被害が多い園地では、18 回目の防除にアグロスリン水和剤（2,000 倍、収穫前日まで、年間3回まで）を加用してください

周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。
特に、通学路に面した園地では登下校時の時間帯を考慮して散布してください。

こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。